

国見町は、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」を進めています。このコーナーでは町や地域が行っている取り組みについて、毎月お伝えしています。

【企画調整課地域振興係 ☎ 585-2967】
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



Vol.56

国登録有形文化財を目指して（貝田地区松田家住宅）

今回の「歴史まちづくり」は、貝田地区にある「松田家住宅」の国登録有形文化財認定のために「郡山女子大学 長田研究室」が実施した調査について報告します。

旧宿場貝田地区に立つ「松田家住宅」

貝田地区は、奥州街道 57 番目の宿場として整備された集落です。「松田家住宅」は貝田地区のほぼ中央にあり、入母屋造りの木造養蚕住宅です。

「松田家住宅」は、いつ建築されたのか

建築年は記録が残っていませんでしたが、明治 43 年の大火で焼失し、その後古い住宅を移築したと、ご当主の聞き取りや文献の火事の記録から判明しました。この建築年を裏付けるのが、住宅に利用された釘の存在です。松田家住宅の床材には、洋釘が用いられその横に和釘を抜いた痕がありました。福島県北地方では、明治 40 年代以降建築の建物には和釘の利用がありません。皆さんの家で釘の頭が角ばっているものを見つけたら、明治 30 年代以前の建物ですので探してみてください。また、聞き取りにより光明寺地区で 50 年ほど経過した養蚕住宅を移築したと伝わったことから、江戸末期から明治初期の建築の可能性が高いと考えられます。



「松田家住宅」道側から

地域の事情が生んだ、高い防火意識と養蚕導入期の遺構を残す農家家屋

貝田地区は集落の近くに東北本線が開通したことで、明治期に 2 度の大火が発生し多くの建物が消失しました。この経験により「松田家住宅」では高い防火意識をもつ特徴的な工夫が施されました。西側の 2 階の雨戸や戸袋は鉄板で覆われ、軒は漆喰塗を施して燃えやすい木部の露出を防ぎます。



長田准教授（右）の説明を聞く学生たち



鉄板の雨戸と戸袋

また隣家からの類焼対策として西側に土塀と石塀を設置し、さらに防火力が高いシラカシの木を植樹していました。国見峠に近い山々に囲まれたこの地区では、強い西風が吹き、西側から火災が広がったことを知っていたからです。また、煙出しを持つ屋根と高い気抜きが付いた天井、床にも養蚕用の囲炉裏があるなど、養蚕導入期の様子を知ることができる貴重な建築物です。

国登録有形文化財に向けて、そしてさまざまな活用へ

令和 3 年 11 月 14 日に貝田地区屋号めぐりと松田家住宅での日本舞踊の発表会が行われました。歴史を刻んだ建物そして伝統芸能の共演は、華やかな雰囲気を作り出し、普段とは異なる世界を演出しました。今後、登録が認定されたら、地域の皆さんがワクワクするような活用に取り組んでいきたいと考えています。

（出典：郡山女子大学 長田研究室）



日本舞踊を披露する子どもたち



地域おこし協力隊
岡野 希春

地域おこし協力隊活動日記 vol.17

国見の美味しい桃をお届けできました——



こんにちは、地域おこし協力隊の岡野希春です。今回は私の活動内容についてお伝えします!!

■桃の木オーナー制度の実施

1本の桃の木オーナーを事前に募集し、年間を通して桃の生育過程を楽しみながら国見町の桃を受け取ることができる取り組みです。今年度は無事プログラムを終えることができました。

桃のお裾分け袋を作りオーナーさんが周囲の人にお裾分けできるようにしたり、オンラインでも収穫体験を行うことで、たくさんの桃を町外の方に届けることができました。

次回も参加したいという方が多く、既に事前登録の方がいる状態です。来年度、桃を通してたくさんの体験ができるように、2月から募集を始めました。国見町の顔となるようなサービスにできたら嬉しいです。

■季節を楽しむ

最近では、2年連続で町内の古民家で仲間とキャンプをしました。道の駅や商店街で選んだ食材でご飯を作ったり、夜は冷えるためストーブの上でホットワインを作ったり。朝早起きをして写真撮影を試みたり。

「国見の野菜は美味しい」「夜空が綺麗だった」「また来年も仲間を増やして行きたい」と感想をもらい、普段馴染みのある景色が、他の人にとっては大切な思い出になったり、その時ならではの楽しみがあったと感じました。



夢の実現

中野 心那

無限の力

八巻 約音

無限の力

佐藤 優心

無限の力

菅野 未悠

夢の実現

佐久間 健一

夢の実現

松浦 優果

県北中学校（1・2年生）

心なな天才たち